



2024年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月14日

上場会社名 株式会社グリッド 上場取引所 東
コード番号 5582 URL <https://gridpredict.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)曾我部 完
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)洪田 淳一 (TEL)03(5468)8800
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年6月期第1四半期の業績（2023年7月1日～2023年9月30日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第1四半期	225	—	△93	—	△114	—	△120	—
2023年6月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第1四半期	△26.43	—
2023年6月期第1四半期	—	—

(注) 1. 2023年6月期第1四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2023年6月期第1四半期の数値及び2024年6月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 2024年6月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第1四半期	3,486	3,109	89.1
2023年6月期	1,576	1,166	73.9

(参考) 自己資本 2024年6月期第1四半期 3,107百万円 2023年6月期 1,164百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年6月期	—	—	—	—	—
2024年6月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年6月期の業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,753	29.5	342	64.3	323	58.5	284	24.4	61.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期1Q	4,684,200株	2023年6月期	3,636,000株
② 期末自己株式数	2024年6月期1Q	一株	2023年6月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期1Q	4,557,323株	2023年6月期1Q	一株

(注)2023年6月期第1四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2023年6月期第1四半期の期中平均株式数は記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、景気が緩やかに回復しているものの、世界的な金融引き締めによる経済への悪影響が懸念されるなど、先行きの不透明な状況が続きました。また、原油価格の高騰局面が長引く中で円安が進行し、エネルギー価格はさらに上昇することとなりました。そのため、様々なリスクを踏まえたうえでの安定的かつ経済的なエネルギーの需給体制が引き続き求められ、エネルギー消費の効率化が社会全体の重要な課題の一つとして考えられております。

このような状況下、当社は電力・エネルギー、物流・サプライチェーン、都市交通・スマートシティの3分野に注力し、電力需給計画、プラント制御、配船計画、生産計画、都市計画、空調熱源制御等に対して計画最適化を行うAIエンジン及びプラットフォームの開発、運用・サポートを一貫して提供しております。これまでの計画業務は、オペレーションを熟知した熟練人材による多大な労力により成立しておりましたが、AI技術や数値最適手法を用いた当社の計画最適化サービスは、複雑かつ不確実性の高いビジネス環境下でも短時間で最適な計画を提供し、属人性を排することを可能としております。加えて、電力や物流等の事業会社を中心にエネルギー消費量の削減を可能とし、投資効果を明示できるサービスでもあることから、当社の事業に対する期待は一層高まっております。

当第1四半期累計期間は、引き続き電力・エネルギー、物流・サプライチェーン、都市交通・スマートシティの3分野に注力し、電力・エネルギー及び物流・サプライチェーン分野を中心に既存顧客の本番導入に向けた開発が進捗いたしました。また、物流・サプライチェーン分野において新たな運用・サポート案件が開始され、相対的に当該期間のストック型売上が大きくなり、その比率が伸びました。一方で取引先数については若干減少いたしました。これは本番導入の進展に伴い、AI開発、プラットフォーム開発、運用・サポートの3区分において、横断的にサービスを提供した取引先が複数あったためであり、結果的に顧客平均売上の増加につながりました。

当社は、AIエンジン及びプラットフォーム開発をフロー型売上、運用・サポートをストック型売上として定義しておりますが、当第1四半期累計期間の電力・エネルギー分野の合計売上高は75百万円、うちフロー型売上は47百万円でストック型売上は27百万円、物流・サプライチェーン分野の合計売上高は118百万円、うちフロー型売上は71百万円でストック型売上は46百万円、都市交通・スマートシティ分野の合計売上高は30百万円、うちフロー型売上は21百万円でストック型売上は9百万円、社会インフラ3分野に分類されないその他の合計売上高は1百万円となりました。

また、当社は開発体制の強化に向けて優秀なエンジニアの採用を行うことで今後の事業拡大に向けた取り組みを進めており、当第1四半期会計期間末におけるエンジニアは63名となりました。このことから、製造費用におけるエンジニアの件数は152百万円となりました。

以上より、当第1四半期累計期間について、売上高は225百万円となり、営業損失93百万円、経常損失114百万円、四半期純損失120百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は3,486百万円となり、前事業年度末と比較して1,910百万円増加いたしました。流動資産は3,193百万円となり、1,916百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が2,190百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が275百万円減少したことによるものであります。固定資産は292百万円となり、5百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産に含まれる繰延税金資産が5百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債は376百万円となり、前事業年度末と比較して32百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が13百万円、その他に含まれる未払金が12百万円、未払費用が24百万円減少した一方で、その他に含まれる契約負債が14百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は3,109百万円となり、前事業年度末と比較して1,943百万円増加いたしました。これは東京証券取引所グロース市場への株式上場に伴う公募増資等の実施により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ1,031百万円増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が120百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の業績予想につきましては、2023年8月14日に公表いたしました「2023年6月期決算短信」に記載した内容から変更はございません。経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

なお、2024年6月期第2四半期累計期間の業績予想につきましては、引き続き営業損失を見込んでおりますが、売上高の増加により赤字幅は大きく圧縮され、当第3四半期累計期間において営業損失が解消する見通しです。当期の受注は、物流・サプライチェーン分野の新規顧客獲得を中心に下期にかけて加速し、それに伴い売上高は当第4四半期会計期間が最も大きくなる見通しです。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	671,809	2,862,450
売掛金及び契約資産	573,798	298,674
その他	31,687	32,423
流動資産合計	1,277,296	3,193,547
固定資産		
有形固定資産	9,680	10,942
無形固定資産	130,640	129,920
投資その他の資産	158,497	152,071
固定資産合計	298,818	292,933
資産合計	1,576,114	3,486,480
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	62,870	68,410
賞与引当金	—	24,147
その他	275,237	231,873
流動負債合計	338,107	324,430
固定負債		
長期借入金	71,630	52,450
固定負債合計	71,630	52,450
負債合計	409,737	376,880
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	1,131,848
資本剰余金	1,394,500	2,426,348
利益剰余金	△329,738	△450,211
株主資本合計	1,164,761	3,107,984
新株予約権	1,615	1,615
純資産合計	1,166,377	3,109,600
負債純資産合計	1,576,114	3,486,480

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
売上高	225,052
売上原価	94,779
売上総利益	130,273
販売費及び一般管理費	223,780
営業損失(△)	△93,506
営業外収益	
受取利息	130
講演料等収入	245
業務受託手数料	502
その他	165
営業外収益合計	1,042
営業外費用	
支払利息	220
上場関連費用	21,667
補修費用	92
営業外費用合計	21,980
経常損失(△)	△114,444
税引前四半期純損失(△)	△114,444
法人税、住民税及び事業税	572
法人税等調整額	5,455
法人税等合計	6,028
四半期純損失(△)	△120,472

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月7日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2023年7月6日を払込期日とする有償一般募集増資（ブックビルディング方式による募集）による新株式876,000株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ862,334千円増加いたしました。

また、2023年8月7日を払込期日とする有償第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式172,200株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ169,513千円増加いたしました。

この結果、当第1四半期会計期間末において、資本金が1,131,848千円、資本剰余金が2,426,348千円となりました。

(セグメント情報等)

当社は、AI開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。